

令和4年度
地域福祉コーディネーター
活動報告

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課 地域支援係

目次

令和4年度の活動を振り返って	2
1. 江東社協の地域福祉コーディネーターについて	3
2. 地域福祉コーディネーターの設置状況	5
3. 令和4年度 相談・支援実績	6
4. 令和4年度 地域福祉コーディネーター行動記録	8
5. 令和4年度 地域福祉コーディネーター活動事例集	10

令和4年度の活動を振り返って

江東区社会福祉協議会では、孤独死や引きこもり、虐待、ゴミ屋敷等、深刻化する地域課題や社会的孤立の問題に対して、2016（平成28）年度より、地域の方と協力して解決に取り組む「地域福祉コーディネーター」を区内4圏域に8名配置いたしました。

地域福祉コーディネーターは、社協が培ってきた地域とのつながりや既存の『高齢者の見守り』や『ふれあい・いきいきサロン』等の助け合いや居場所づくりの事業を通じて地域の課題を把握し、地域の方や関係機関と連携し「顔の見える地域づくり」を進めながら解決に取り組んできました。

令和4年度は、コロナ禍により自粛せざるを得なかった地域の皆さんの自主活動が、再開に向けて徐々に動き出す一年でした。コロナ禍での活動支援として、皆さんの取り組みの工夫を共有することが後押しになり、感染対策を取りながら活動を継続された方がいる一方、完全に活動を休止されている方もいまだ少なくありません。

その再開に向けては、そこに携わる住民の皆さんの考え方・年齢構成・地域性など様々な要因により、再開の可否・方法や時期が大きく異なっています。個々の活動には、そこに携わる住民の皆さんの意識を基礎に置くことが重要なため、引き続き、各々の活動に寄り添った伴走支援に取り組んでまいります。

そして、コロナ禍は誰にとっても改めて地域のつながりを考える契機となったことから、「身近に心配な方がいるがどこに相談したらよいかわからない」「地域と交流の少ない知人がますます孤立しており心配」という周囲の方を気遣う個別の相談も複数寄せられ、前年度より多く年間226件の新たな相談をいただきました。

いただく相談の内容は多岐に渡りますが、その中でも深刻化が危惧される孤立にかかわる相談については、地域福祉コーディネーターだけでは解決が難しく、住民の皆さん・関係機関との連携をはかりながら取り組んでまいりました。

また、令和4年度から江東区では一人ひとりの暮らしと生きがい・地域をともに創っていく地域共生社会の実現を目指した「江東区地域福祉計画」が推進されました。江東社協では、その計画と両輪になり、住民の方・関係団体等が中心となって地域福祉を推進するための「第5次地域福祉活動計画」（期間：令和6年度～11年度）の策定が始まっています。

次期計画では、誰もが笑顔で安心して暮らせるために必要な取り組みについて、地域の皆さんに参画いただきながら進めて参ります。そのため、地域福祉コーディネーターは地域の方々との信頼関係をさらに強化できるよう、努めて参ります。

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課

1. 江東社協の地域福祉コーディネーターについて

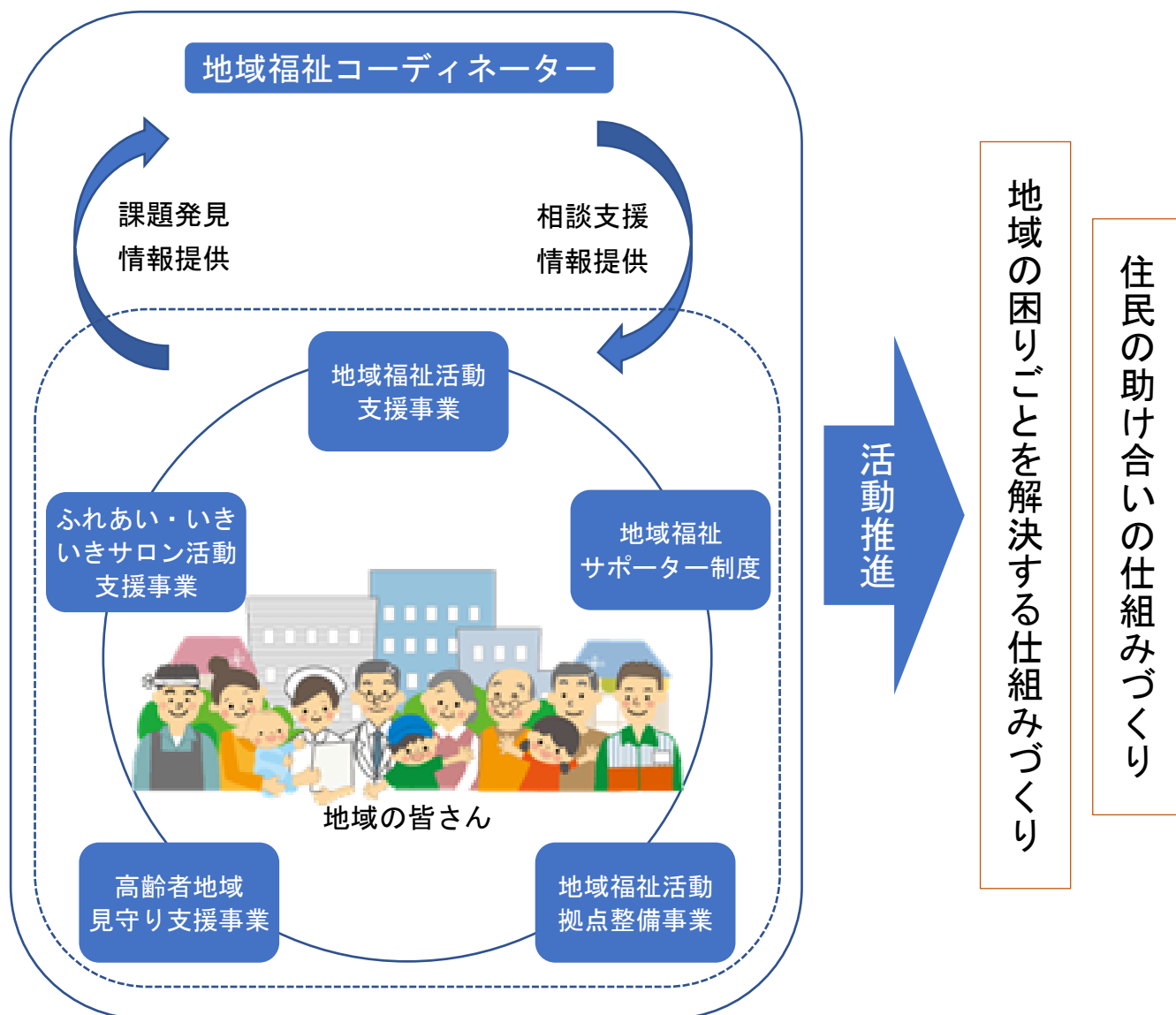
■地域福祉コーディネーターの役割

地域社会の人間関係が希薄化する中で、社会的孤立の問題は更に潜在化し、公助や互助が必要でありながら、支援に結びつかない案件が増えています。こうした問題を発見し解決していくには、人と人、地域と人とのつながりが不可欠です。このような地域におけるつながりづくりを地域の方や関係機関と協力して実践し、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指すことが地域福祉コーディネーターの役割です。

■地域福祉コーディネーターの取り組み

江東社協の地域福祉コーディネーターは、これまで社協が培ってきた地域とのつながりや「高齢者地域見守り支援事業」「ふれあい・いきいきサロン事業」（次頁参照）等の既存事業を活用して地域課題を抽出し、課題解決に向け地域の方々や行政と協力しながら支援に取り組んでいます。

地域福祉コーディネーターの活動イメージ



■地域福祉コーディネーターが実施する主な事業

○高齢者地域見守り支援事業

高齢者が地域から孤立することを防止し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、異常等を発見したときに迅速に対応できる体制づくりを目的とした江東区の事業です。社会福祉協議会では平成23年度から本事業を受託し、地域の方々が主体となって取り組む見守り活動や支え合いの体制づくりを支援しています。町会・自治会・老人クラブ等を単位とした見守り活動に取り組む地域である「サポート地域」に対し、セミナーの開催や先進地域の見学等のプログラムを通じ、地域の実情にあった活動の実践を支援しています。

○生活支援コーディネーター

介護保険制度における高齢者に対する生活支援体制整備のため、生活支援や介護予防サービスにつながる住民同士の支え合い活動の啓発や担い手の育成に取り組んでいます。地域福祉コーディネーターの取り組みと共通点が多いため、常勤職員4名が地域福祉コーディネーターと兼務しています。

○ふれあい・いきいきサロン

ご高齢の方、障害のある方、子育て中の親子、外国人の方等が孤立しないよう、地域の方々が自主的に運営していく仲間づくりの場の立ち上げから運営を支援しています。

○地域福祉活動拠点整備事業

地域福祉コーディネーターの活動拠点として、区内4か所にて社協カフェ「みんなの居場所」（福祉総合相談、ボランティア相談、各種イベント、地域との連絡会等）を開催しています。

○地域福祉活動支援事業

地域の方々が主体となって行う地域福祉活動（多機能型地域福祉活動拠点等）の立上げや運営等を支援しています。

例：多世代交流の里 すなまちよっちゃん家
コミュニティサロン「カフェ^{ゼロク}06」
たまりば どんぐり

○地域福祉サポーターの養成

地域福祉コーディネーターと共に地域の困りごとや課題について考え、解決に向けた取り組みにご協力いただくボランティアを養成しています。

2. 地域福祉コーディネーターの設置状況



地域福祉コーディネーターは、区内の生活圏域を4地域に分け、各地域に職員2名（常勤・嘱託）を配置しています。（令和4年度末時点）

各圏域には、地域の方々が主体的に運営する見守りや居場所づくりの様々な活動があり、地域福祉コーディネーターは、各担当圏域の活動を支援しながら地域へのアプローチの入口として連携し、地域課題や困っている方の発見・支援に結びつけています。

3. 令和4年度 相談・支援実績

新規相談件数（ ）内前年実績

地 区	支 援		合 計
	個別支援	地域支援	
深川北部	25 (23)	17 (17)	42 (40)
深川南部	47 (28)	40 (30)	87 (58)
城東北部	32 (24)	53 (37)	85 (61)
城東南部	46 (30)	16 (8)	62 (38)
合 計	150 (105)	126 (92)	276 (197)

個別相談…地域において生活上の課題を抱える個人や家族に対する相談

地域相談…地域の方々が主体となる地域活動の立ち上げや運営に関する相談

相談に対しての支援活動件数（ ）内前年実績

地 区	支 援		合 計
	個別支援	地域支援	
深川北部	202 (369)	553 (650)	755 (1,019)
深川南部	301 (86)	977 (790)	1,278 (876)
城東北部	368 (303)	1,259 (1,208)	1,627 (1,511)
城東南部	187 (136)	1,141 (678)	1,328 (814)
合 計	1,058 (894)	3,930 (3,326)	4,988 (4,220)

■ 相談内容（個別相談）

- ・ 月一回、家族の介護をしている方達で集まり、おしゃべりをしている。気晴らしとなる貴重な機会のため、他に参加できる場がないかサロン情報が欲しい。
- ・ 80歳過ぎで女性お一人暮らしの知り合いの方で気になる方がいるので相談したい。認知症が出ているような気がして心配。
- ・ 心配な独り暮らしの友人について見守りということで、電話したりはしているがそれしか方法はないのかと相談したい。
- ・ 同じ住宅の高齢の隣人が救急搬送され、入院中。年末年始に（隣人が）退院となったらどうしたらよいかと不安を感じている。

- ・以前、老人ホームでボランティア活動（配膳等）を行っていた。コロナ禍でできなくなってしまったため、何かコロナ禍でもできるボランティアはないか。
- ・コロナ禍で一時的に減収となり、全戸が負担する公共料金を数か月滞納。不動産業者からの頻繁な連絡に恐怖を感じており、どうしたらよいか。

■ 相談内容（地域相談）

- ・マンション居住者が高齢化してきている為、認知症サポーター養成講座を検討している。情報があれば教えてほしい。
- ・将来的にふれあい・いきいきサロンを開催したい。今は地域で開催しているイベントなどに歩いて参加できるが、これから年齢を重ね、もしそれも難しくなればやはり住んでいるマンションで、高齢の方を集め何かできればと思っている。
- ・区内のマンションに居住し、何か地域活動をはじめたいと思っている。今後どのように進めていったらいいのか相談したい。
- ・社協だよりをみて、ふれあい・いきいきサロン立ち上げについて興味がある。
- ・（ふれあい・いきいきサロンの）参加者が減ってきてしまっている。周知・広報の支援はしてもらえるか。
- ・（他区より相談）インド人が多く住む地域があり、文化の違い（香辛料の匂いや夜間に子どもが遊ぶ声がうるさい等）から自治会とトラブルが生じている。江東区にもインディアンインターナショナルスクールがあるが、地域とどのようなつながりを持っているか知りたい。
- ・サークル活動を通じ、歳末募金や施設への寄付を仲間と行ってきた。一人親家庭の貧困をニュースで見たため、子どもへ寄付をしたいので寄付先を知りたい。

相談経路

個別相談（ ）内前年新規個別実績

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治会	近隣 住民	ボラン ティア	NPO 任意 団体	その他	合計
深川北部	15 (15)	1 (1)	5 (1)	0 (1)	2 (1)	2 (2)	0 (1)	0 (1)	25 (23)
深川南部	31 (10)	0 (1)	8 (4)	4 (5)	0 (6)	3 (2)	1 (0)	0 (0)	47 (28)
城東北部	10 (11)	2 (0)	4 (4)	2 (1)	6 (4)	6 (3)	2 (1)	0 (0)	32 (24)
城東南部	23 (11)	0 (1)	10 (5)	5 (3)	2 (2)	5 (4)	1 (2)	0 (2)	46 (30)
合計	79 (47)	3 (3)	27 (14)	11 (10)	10 (13)	16 (11)	4 (4)	0 (3)	150 (105)

地域相談 ()内前年新規地域実績

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治会	近隣 住民	ポラン ティア	NPO 任意 団体	その他	合計
深川北部	2 (0)	2 (0)	5 (2)	2 (3)	0 (0)	0 (3)	6 (9)	0 (0)	17 (17)
深川南部	4 (3)	2 (0)	21 (14)	6 (7)	1 (0)	1 (2)	5 (4)	0 (0)	40 (30)
城東北部	0 (1)	0 (1)	28 (17)	8 (9)	0 (0)	4 (1)	12 (8)	1 (0)	53 (37)
城東南部	0 (2)	1 (0)	4 (2)	3 (3)	2 (0)	2 (0)	4 (1)	0 (0)	16 (8)
合計	6 (6)	5 (1)	58 (35)	19 (22)	3 (0)	7 (6)	27 (22)	1 (0)	126 (92)

4. 令和4年度 地域福祉コーディネーター一行動記録

全統計 ()内前年実績

	個別支援 (直接)			個別支援 (間接)			地域支援				合計
	関係形成	個別支援	連絡調整	関係形成	支援	連絡調整	関係形成	ネットワー ク化	運営・活動支援	連絡調整	
深川北部	8 (10)	85 (198)	17 (29)	15 (11)	72 (72)	5 (49)	154 (67)	27 (11)	134 (207)	238 (365)	755 (1,019)
深川南部	11 (7)	123 (23)	22 (10)	2 (4)	103 (13)	40 (29)	22 (31)	32 (23)	293 (151)	630 (585)	1,278 (876)
城東北部	9 (9)	144 (76)	50 (22)	8 (5)	121 (117)	36 (74)	69 (38)	102 (32)	588 (630)	500 (508)	1,627 (1,511)
城東南部	9 (28)	52 (12)	9 (8)	9 (4)	46 (22)	62 (62)	13 (25)	216 (18)	239 (187)	673 (448)	1,328 (814)
合計	37 (54)	404 (309)	98 (69)	34 (24)	342 (224)	143 (214)	258 (161)	377 (84)	1,254 (1,175)	2,041 (1,906)	4,988 (4,220)

行動内容分類

(1) 個別支援（直接）	地域福祉コーディネーターが当事者に直接関わること
1 関係形成	当事者との関係づくりのための行動
2 個別支援	直接支援のための行動
3 連絡調整	当事者本人との諸連絡・情報提供・情報収集・調整（訪問日・相談日の確認）等
(2) 個別支援（間接）	地域福祉コーディネーターが当事者のために地域・関係団体と相談・調整すること
1 関係形成	地域・関係団体との関係づくりのための訪問・会議への出席、イベント参加
2 支援	間接支援のための行動
3 連絡調整	関係者との諸連絡・情報提供・情報収集・調整、書類渡し、会議調整等
(3) 地域支援	サロン・居場所づくり、町会・自治会支援、（外部との）企画打合せ・調整すること
1 関係形成	住民・団体・グループの関係づくりのための訪問
2 ネットワーク化	地域団体・グループの立ち上げ支援、活動の立ち上げ支援及びネットワークの形成
3 運営支援	地域団体・グループ立ち上げ後の運営支援、見学、調査等
4 連絡調整	住民・団体・グループとの連絡や調整、地域福祉サポーターとの連絡調整

5. 令和4年度 地域福祉コーディネーター活動事例集

目次

【個別支援】

1. サービスにつながりにくい障害をお持ちの方への支援・・・・・・・・・・11
2. カードローンを払い続けているひとり暮らし高齢者への支援・・・・・・・・13
3. 地域とつながりを持ちづらい高齢男性への支援・・・・・・・・・・15

【地域支援】

4. 出張型 社協カフェの開催・・・・・・・・・・17
5. 茶話会の立ち上げ支援・・・・・・・・・・19
6. SNS講習会の開催・・・・・・・・・・21
7. ふれあい・いきいきサロン交流会の開催・・・・・・・・・・23
8. 地域福祉サポーター（地域福祉推進員）の活躍・・・・・・・・・・25
9. コロナ禍に開始した新たな見守りの取り組み・・・・・・・・・・27

語句解説・・・・・・・・・・29

サービスにつながりにくい 障害をお持ちの方への支援

相談内容

- 相談者 本人
- 相談内容 人工関節手術のため入院していた病院を退院したが、自宅に戻るも片付けができず、物が多くなっている。家を片付けて欲しい。

開催までの流れ

- 初回相談
令和4年3月に本人より相談が入る。両膝人工関節の手術をして退院してきたが、しゃがみづらく、掃除が大変とのこと。より詳しい生活状況の把握のため訪問の約束をする。
- 訪問調査
同月、本人宅を訪問。生活暦や入院の経緯を聞く。年齢が65歳未満のため第2号被保険者で、特定疾病に該当すれば申請できる可能性があったため、最寄りの長寿サポートセンターを案内。
- 進まない介護申請
5月より地域福祉コーディネーターが、定期訪問を開始するが、6月の時点で介護保険は未申請。理由を本人に聞くと、主治医に介護申請の話をする、手術が原因で介護が必要になったとの誤解を与えることになることが心配だという。
- きっかけは友人のアドバイス
8月下旬、定期訪問時に介護申請をしたとの報告を受けた。きっかけは友人のアドバイスだった。当初、介護申請に必要な意見書を手術した医師に相談しようとしていた。しかし、「現在の通院先の主治医に相談すればいい」とのアドバイスを受けたとのこと。納得した本人はすぐに長寿サポートセンターに相談し、介護申請と認定調査まで終えていた。また、リハビリが順調に進んでおり、自立歩行が可能となる。
- 始まらない介護サービス
10月の訪問で要支援1がついたが、サービス開始はもう少し後になるとのこと。12月の訪問時に介護事業所が決まったが、体調不良が続き、サービス開始は年末になるだろうとのこと。

□ 状況整理

翌年1月上旬、介護サービスはまだ始まっていない。理由を聞くと、「家に掃除機がないからできないと言われた」と話す。理由は不明確なため、介護事業所と長寿サポートセンターに確認し、介護事業所担当者からは何かしら掃除用具があればよいとの報告を受ける。長寿サポートセンターはリサイクルショップで安価な掃除機を選定し、本人へは案内済みで、一緒に買いに行く予定とのこと。買いに行く時期については本人のペースに合わせるつもりとのこと。

□ 掃除機購入

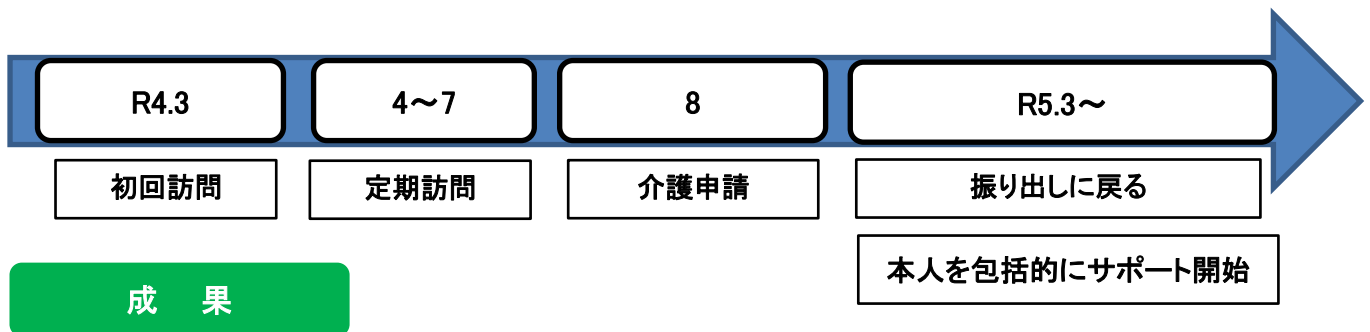
1月下旬、長寿サポートセンターより掃除機を購入したとの報告を受ける。

□ 一見、進んだように見えたが…

介護サービス契約のため、面談等の日程を決定するものの、本人が何度もキャンセルしてしまう。介護サービス導入は白紙となる。社協は、安否確認・緩やかな見守りと傾聴を行う。

□ 本人のニーズに寄り添う

本人の話を受聴したところ、主治医の人事異動による不安感を口にする。本人が納得して行動できるよう、時間をかけて話を聞いたところ、自身が所有した株や相続で得たものが、どのようになっているのか気がかりになっていることが分かる。経済的な不安もあった様子。金融機関の諸手続き等が（本人の障害等により）できなくて心残りであると、堰を切ったように話す。本人ができること、やらなければいけない事を本人と一緒に、問題点を紙におこし可視化をおこなう。また、専門職の力が必要な時は、つなげることをとする。



★ 気付かなかった困りごとを発見

関係が築かれる中で、本人の自覚はないものの、気がかりであった困りごとを発見できた。

どうしたら良いのか漠然とした不安を抱えていたようで、職員が携われることを知って、重い荷物を降ろした安心感を得たように見受けられた。

今後の方向性

介護サービスの導入で支援終了と考えていたが、金融機関の諸手続き等の支援も伴走しながら支援予定。

カードローンを払い続けている ひとり暮らし高齢者への支援

相談内容

- 相談者 団地に単身で住む 80 代男性
- 相談内容 何年も前から毎月 1 万円が口座から引き落とされているが、それが何の支払いなのか分からないので調べてほしい。

支援の流れ

□ 本人宅訪問時に相談を受ける

男性はふだん元気で過ごしているが、最近物忘れや運動能力の衰えが出てきたため、地域福祉コーディネーターが時々立ち寄って様子を見るなどしている。

ある日、「ずっと前から毎月 1 万円が口座から引き落とされているのだが何の支払いなのか分からない」と通帳を持ち出してきた。

□ 取引内容を確認

金融口座から「カードローン」という名目で毎月 1 万円が引き落とされている。またそれとは別に小売店系のカードローンの返済もしているとのことだった。合わせて月 2 万円を返済に充てていることになる。本人から依頼され金融機関に問い合わせると、カードローン口座から引き出されたお金を、普通口座からリボ払いで返済しているものだという。返済残高を本人といっしょに確認をおこなう。

□ 今後の見通しを検討

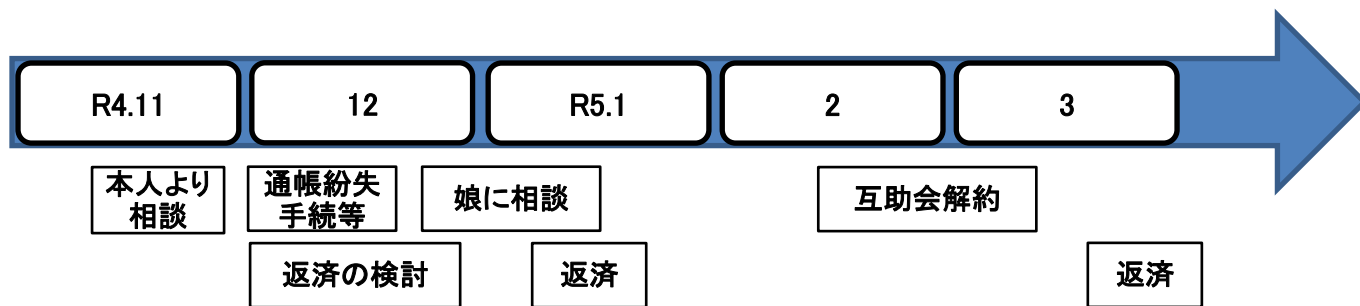
毎月 2 万円の返済が終わるのは 1 年以上先で、それまで余裕のない生活が続くことになる。できればどちらかだけでも一括で返済してはどうかと提案する。

年末年始に娘と過ごすとのことなので、その時に相談するように勧める。

□ すべてのローンが解消

小売店系のカードローンについては娘が返済金を立て替えてくれることになる。

また本人が互助会の積み立てがあることを思い出し、職員と一緒に確認すると、互助会を解約すれば金融口座カードローンも一括返済できるだけの返戻金があることが分かった。再度娘と相談した上で互助会の解約を決め、手続きを行う。返戻金が振り込まれたため、その後完済となる。



成 果

★ ローンを完済し、月々の生活に余裕が生まれる

年金だけの収入の中からカードローン返済に毎月2万円が充てられており、うちひとつは本人も忘れていた借入金に対するものだった。書類が散逸したり通帳・カードを紛失したりで、本人だけでは状況の把握は困難であった。

これらを本人と一緒に整理し、金融機関に問い合わせるなどしてローンの状況が分かった。また家族からの支援を含めた返済の方策を本人と検討し、手続きをサポートすることにより完済することができた。その結果月々の収支状況が大幅に改善され、生活にも余裕が生まれるようになった。

今後の方向性

本人は近所付き合いも多く、自治会や社協カフェにも積極的に参加するなど活動的に過ごしてきた。ただ高齢になったいま、転倒したりスケジュールを忘れていたりするなど、その影響が出てきている。

住み慣れた地域でできるだけ今の暮らしが続けられるよう見守りを続け、必要であれば長寿サポートセンター等と連携し、適切なサポートにつなげられるようにしたい。

地域とつながりを持ちづらい 高齢男性への支援

相談内容

- 相談者 福祉関係者、知人、本人など
- 相談内容 これまで自立した生活を営んでいた軽度の障害をお持ちの方が高齢になり、身体機能の低下等により、日常生活にちょっとした困りごとが生じてきている（複数の同様な相談あり）。助けてくれるような親族や親しい友人が身近にいないため、どこに相談したらよいか。気軽に相談でき、支援を受けることができる場所はないか。

支援の流れ

□ 本人の思いを聞き取り、関係構築を図る

地域福祉コーディネーターへの相談のきっかけは異なるが、同様の相談が複数寄せられたため、相談者それぞれの個々の思いをうかがい、関係構築を図った。

話をうかがう中で、「転居をしてから、新しい通院先や買い物をする店が見つけれない」「様々な申請書類の記入や提出の仕方がわからない」等、身近に頼れる人がいない単身者ならではの日常生活の困りごとが共通してあることが分かった。

□ 新たなつながりづくりを提案

地域福祉コーディネーターは、長寿サポートセンター等の関係機関に確認を取りながら、困りごとの解決に向けて相談者へ情報を提供する等の支援を行った。

また、相談者と接する中で困りごとが表面に現れにくい状況には、近隣との関係が希薄であることが要因になっていると感じられた。そのため、社協で行っている地域交流の場である『社協カフェ』や地域の皆さんが主体となって行うつながりづくりの場である『ふれあい・いきいきサロン』について案内をするも、そのような集いの場への参加には皆さん抵抗がある様子であった。しかしながら、地域福祉コーディネーターが訪問して個々に話をうかがうことに対しての拒否はなく、長い時間話される方もおり、支援の難しさを感じた。

□ 関係機関との話し合い

相談者についての情報共有など長寿サポートセンターと話し合う機会を通じ、同様の状況は地域課題であり、センター主催の地域ケア会議において集団プログラムに参加することを好まない、独居の高齢男性の状況とその支援について検討を行った。

関係機関が揃い検討する中で、「男性が集団活動に参加するには、目的や役割が明確であることの必要性」が共有された。また、無理に外出せずとも、自宅でデジタルツールを

活用して介護予防に取り組めるなど、新たなプログラムや仕組みづくりの必要性についても意見が出された。

成 果

★ 高齢男性に関わる関係機関の情報共有

集いの場に男性の参加が少ないことは、地域においても、ふれあいセンター等の高齢者施設においても同様な状況にあり、地域では交流の場として花壇活動を行う等の男性参加に向けた工夫やセンターでの男性をターゲットとした事業開催に工夫をされていることが共有された。

また、デジタルツールの活用については、地域によっては町会主催によるスマホ教室の開催やセンターでは Zoom の使い方教室開催など新たな情報を共有し、今後の連携を確認することができた。

今後の方向性

増加傾向にある単身高齢男性の生活支援について、その方策は今後も継続した検討が必要である。地域福祉コーディネーターを含め、様々な関係機関が行う取り組みについて今後も共有し、Web 化した社会の仕組みを活用しながら地域で安心して生活が続けられるよう、必要な支援について仕組みが作れるよう努めていく。

出張型 社協カフェの開催

相談内容

- 相談者 自治会長
- 相談内容 住宅内で居場所を作ろうとしているが、運営委員会のみんながイメージしやすいよう『出張型・社協カフェ』を開催して欲しいと考えている。

開催までの流れ

□ 自治会長から相談が入る

「地域のコミュニティ力の強化のため、住民主体の居場所をつくりたい。だが、統一したイメージができていない。一度、自治会集会所で『出張型・社協カフェ』を開いてもらえないだろうか。」との相談が入る。

□ 開催内容・方法を検討

自治会有志、長寿サポートセンター職員、社会福祉協議会職員で打ち合わせを行う。出張カフェの主旨とイメージ、そしてターゲット層を共有。

目的：住民の居場所を確保

対象者：だれでも自由に参加できるスタイルだが、高齢者の中間層がターゲット

内容：“集い”を主軸に行うため、カフェスタイルの茶話会は必須。だが、茶話会だけだと参加しづらいとの意見があり、イベントも開催することとなる。

方法：(自治会の主体的な開催であるため)自治会から各棟へ働きかけを行い、開催することの了承を得る。運営スタッフを各棟から1名以上選出。

当日：運営スタッフは30分前に集合。役割分担・設営等を行う。

住民の課題・ニーズ等を探るため、参加者へ自治会が作成したアンケート配布。受付簿に参加者の氏名・住所・電話番号を記入いただく。

□ 開催場所の背景

賃貸・分譲が混在している大規模団地。高齢化が進んでいる。表面上はわかりにくいですが、住民の孤立・高齢者の経済的困窮の課題がある。

□ 開催当日プログラム

- ・長寿サポートセンター主催の「エンディングノート講座」(終活)
- ・社協職員による「パラスポーツ ボッチャ体験会」
- ・カフェスタイルの茶話会(入退室自由)

□ 開催後の支援

参加者20名程。開催したからこそその課題点、改善点、ふれあい・いきいきサロンとの差別化を可視化する。

成 果

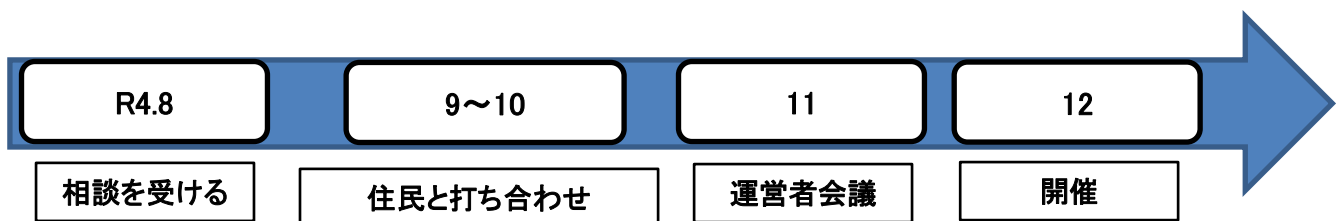
★ アンケート結果から

アンケート集計・分析したところ、「このような居場所が必要である、あったら参加したい。」との意見が多数。この結果は想定内だったが、それだけではなく「運営スタッフとして参加したい。」との意見が多数寄せられた。そのため、住民主体の居場所づくりを進めることができると確信が持てた。

今後の方向性

★ 住民主体・日常の集いが主軸

日常の居場所づくり推進するため、自治会が現在行っている行事を一旦整理整頓することとした。ゴミの仕分けが重労働である夏祭り等は、作品展等の文化祭形式の開催とし、住民が負担感なく集える仕組みを構築し、日常を基盤とした“集い”を進めていく。



エンディングノート講座



ポッチャ体験会



事例5

地域 支援

「高齢者地域見守り支援事業」サポート地域への支援

茶話会の立ち上げ支援

企画の背景

- 企画者 地域福祉コーディネーター
- 企画意図 以前に比べ単身高齢者の居住が増え、自治会の役員の高齢化に伴い、役員の担い手不足が問題となってきた集合住宅の中で、この数年のコロナ禍もあり、人と人のつながりが希薄になっている状況があった。ある日、サポート地域より、社協が送付したアンケートへの自由記述欄に『年々年寄りが増え、一人暮らしの高齢者が多くなってきた。その中でも、男性の一人暮らしの安否確認を他の地域ではどうしているのか知りたい。』との記述をきっかけに、住民や関係機関で話し合いを実施し、茶話会の開催を検討することとなる。

開催までの流れ

□ 自治会長に現状の確認を実施

数年前から自治会長とは、「この住宅内で何か茶話会のようなものを開催し、みんなで集まり、話をする場所(集う場所)ができれば・・・」というやり取りはしていた。課題に感じている男性の一人暮らしの安否確認をどのようにしていったらいいかこの地域にあった形での安否確認をいっしょに考えるとともに、現在この集合住宅にお住まいの方の状況や、近隣の地域情報について話を伺う。

□ 集合住宅にお住まいの住民の方や関係機関が集まり、開催に向けた意見出し

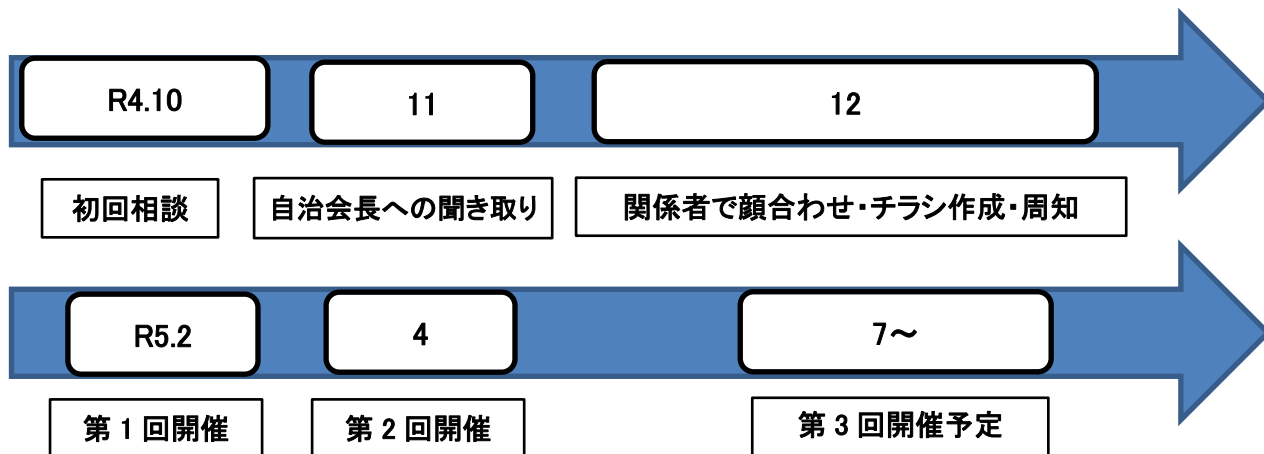
茶話会当日、どのような茶話会にしたいか、この茶話会がどういった方々に参加してもらえそうな場所になったらいいか、周知方法としてチラシにどのような文言を入れるかなど自由に意見交換をおこないながらみんなで検討する。

お互いに話をする時間を大切にしたいとのことで、特にイベントは開催せず、茶話会の実施となる。(入退室自由)

□ チラシの作成・茶話会の開催

参加者への周知・広報のためにチラシを作成する。

開催場所である棟の集合住宅にある掲示板への掲示や、近隣集合住宅への掲示板にチラシを掲示。また、近隣住民が多く参加している、住宅前の公園で毎朝実施しているラジオ体操のメンバーにも周知をおこなう。第1回目は、約20名の参加となる。



成果

★ 居住者同士の顔のみえる関係づくりの機会創出

当初、5人参加があればいい方と考えていたが、集合住宅の居住者を中心に、近隣住民も参加し、第1回は約20名の人に参加された。参加者からは、「こういう場を待っていた」との声も多数あった一方で、10年近く住宅に居住していても全然住んでいる人の顔を知らないといった方もいた。そのため、定期的開催し、居住者同士の顔のみえる関係づくりとして茶話会を定期開催の方向となる。

今後の方向性

居住者同士のつながりづくりの場としても、もちろんだが集合住宅が立ち並ぶエリア、かつ単身高齢者も多く居住する地域で、定期的集まるといった場がなかったこともあり、近隣住民も参加できるかたちで定期開催を目指していく。また当初の課題であった、男性の一人暮らしの方にも参加してもらえようような内容の検討が必要。



好評につき第2回目の開催！第3回目も7月に開催予定！

事例6

地域 支援

高齢者地域見守り支援事業

SNS 講習会の開催

企画の背景

- 企画者 地域福祉コーディネーター
- 企画意図 コロナの影響や担い手不足により、見守り活動が思うようにいかない、スマホを使って見守り活動ができれば良いが、上手く活用出来る方法がわからない、という地域の方の声があり、SNSを活用した見守り活動について講座を企画した。

開催までの流れ

□ コロナ禍での見守り活動の停滞

昨年度は、新型コロナウイルス感染急拡大に伴い、高齢者地域見守り支援事業「サポート地域連絡会」を、会場参加とZoom（オンライン）の併用型で開催した。今年度、コロナは収束しつつあったが、見守り活動が停滞しているサポート地域も増加した。また、担い手の高齢化に伴い、担い手不足も大きな課題となっている。

□ 新たな形での見守り活動を模索

サポート地域の方より、「スマホを上手く使って見守り活動が出来ると良いが、活用方法が分からない」との声があった。SNSをもっとうまく活用出来れば、見守り活動に活かせる可能性があるのではないかと感じた。新たな形での見守り活動を模索する必要性を感じた。

□ SNS講習会を企画・開催することを決定

SNSの使い方講座を開催することを決定。実践的に見守り活動に活かせるツールについて検討する。

□ 講師と共に、「理想のゴール」を決める

講師と綿密な打ち合わせを行い、「理想のゴール」を決定。「スマホの活用法についての理解がすすむ」「見守り活動を継続的に行う想像ができる」「スマホを活用した見守り活動が行える」ことをゴールとすることを決めた。LINEのオープンチャット機能を利用し、見守り活動に活かしていく内容で決定。

成 果

★ 新たな形での見守り活動を体感することができた

LINE のオープンチャット機能を利用し、個人情報に配慮しながら、誰でも参加できる「情報交換の場」をつくることができた。

OLINE のオープンチャット機能の利点

- ・ 個人情報を制限しながら、自分たちのルールで運用できる
- ・ 大人数での利用ができる
- ・ 広く、地域の声を共有することができる
- ・ 入退会の心理的負担が少ない
- ・ 管理者、共同管理者権限の設定が可能、質のコントロールができる

参加者からの反応は非常によく、アンケート回答者の 92%の方が「参考になった」と回答をいただいた。

今後の方向性

アンケート結果には、「本当に有意義な講座だった」「実際の見守り活動に活かしたい」との声があった。高齢者でも多くの方がスマホを持っている現在ではあるが、ほとんどの方が限られた機能を利用している状況である。SNSを活用することで、「簡単に」「継続的に」地域の見守り活動が出来る可能性を知ることが出来た。もう少し先の話になるかもしれないが、実際にSNSを取り入れた見守り活動を始めるサポート地域が出てくれば、実践発表して頂く等も良いのではないかと思う。今後も、引き続きこのような講座の企画・開催を検討していきたい。



当日の開催のようす

ふれあい・いきいきサロン交流会の開催

企画の背景

- 企画者 地域福祉コーディネーター
- 企画意図 他のふれあい・いきいきサロンがどのような活動をしているかを知り、活動を通じての悩みや、これからどのようなサロンにしたいかなどを語り合うことにより、サロン同士がつながり合える場を創出する。

開催までの流れ

- 新型コロナウイルス感染急拡大により開催中止

令和3年度に、ふれあい・いきいきサロンの参加者および運営スタッフを対象に、「サロン報告会」として企画。コロナ禍でも様々な工夫をしながら活動をしているサロンを紹介する内容で、9月の開催へ向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染急拡大に伴い、開催中止となる。

- 広報誌発行

サロンの情報交換・情報提供を目的として、年2回発行している広報紙「ふれあい・いきいきサロン通信」に、報告会で紹介予定であった4サロンの活動内容を掲載。

コロナ禍で、サロンはほとんど休止状態となったが、オンラインの活用、屋外での活動、電話や手紙の活用等、コロナ禍でもつながり続ける工夫をしているサロンの情報を掲載し、サロン活動の継続を支援。

- 「ふれあい・いきいきサロン交流会」を開催

令和4年度10月、ようやく会場参加型の「ふれあい・いきいきサロン交流会」を開催。4サロンの活動紹介とサロン交流タイム（グループワーク）を行った。また、サロンの貸出用品の体験コーナーや、活動写真・参加者募集チラシの展示コーナーも設置した。

成 果

- ★ 活動紹介は、時間の関係もあり4サロンであったが、サロン同士で質問しあったり、連絡先を交換したりするなど、サロン同士がつながる良い機会となった。
- ★ 新規サロン立上げ検討者も参加。今後の活動の参考になったとの声をいただいた。
- ★ アンケート結果では、「他の活動状況を知り、参考になった」「各サロンの工夫している様子がわかった」との声があり、開催の意義を感じた。

今後の方向性

- ・ アンケート結果では、「もっと交流したかった」「時間が足りなかった」との声があり、皆で交流したり話したりする時間を、もっと長くしても良いと思われた。
- ・ 平日の日中に開催すると、ほとんどの参加者が「高齢者サロン」となってしまう。乳幼児対象や子育て中の親子サロンなどは、参加しづらい。どのサロンでも参加しやすい曜日や時間帯を検討していく必要がある。
- ・ 運営していく課程での苦労や、その苦労を乗り越えた話が聞きたいとの声があった。「サロンの活動内容」を紹介するだけでなく、「活動の歴史」について話をしてもらうのも良いのではないか。

サロン交流タイム →



↑ 活動写真・参加者募集
チラシの展示コーナー

活動紹介 →



地域福祉サポーター（地域福祉推進員） の活躍

事業内容

- 地域福祉サポーターとは 社協について理解をいただき、地域課題に気づきを持ち、社協職員とともに考え、解決に向けた取り組みに協力いただくボランティア。
2017(平成29)年度より養成講座を開催し、様々な世代の「地域のために何かできないか」との思い持つ106名の方々に登録をいただく。
定期的に情報交換を行う場として、お住まいの地域ごとに4地区（深川北部・深川南部・城東北部・城東南部）での連絡会や全体の連絡会も開催している。

これまでの流れ

□ 地域福祉サポーター募集の取り組み

年1回地域福祉サポーターの募集を行い、養成講座を開催。「江東社協を知ろう」「江東区の現状と課題」「地域福祉サポーターとは」について職員より説明をし、自己紹介や先輩サポーターからの体験談を聞きながら意見交換を行い、活動のイメージを共有し、地域福祉サポーターとして登録をいただく。

また、サポーターの皆さんが地域活動を行う際に役立てていただけるよう、誰でもできる体操やレクリエーションについて学ぶ講座も開催した。

年度ごとに登録者も増え、皆さんから「これをやりたい」との声をいただくようになり、今後の活動に向けた機運が高まった。

□ コロナ禍での取り組み

新型コロナウイルス感染症の拡大により、養成講座の休止など取り組みを縮小せざるを得ない状況となる中、対面できなくても情報共有が図れるよう地域福祉サポーター通信を発行し、あるサポーターの方にはITスキルを活かしてZoom勉強会講師を依頼するなど、それぞれの地域活動へのかかわりや地域福祉コーディネーターとのつながりが途切れないように努めた。

サポーターの方からは、自粛中には集うことができないからこそ、近隣の方への挨拶を大切にすることで周囲から喜ばれたなど、それぞれ工夫されている状況をうかがった。

□ 地域活動の再開に向けて

令和4年度より感染対策を取り入れながら、取り組みを再開した。サポーター養成講座では、より多くの皆さんに参加いただけるよう開催曜日を見直し、複数回の開催とした。コロナ禍を経ることで「自分も何かできないか」と考える多くの方々に参加いただくことができた。

また、すでに登録いただいているサポーターに向けた全体交流会も再開し、この間の活動状況や取り組みの工夫等を共有し、今後の活動について意見交換を行った。

そして、社協主催の地域交流の場である『社協カフェ』にてかねてより企画していた皆さんの特技を活かしたイベントを開催して好評を得たり、近隣住宅がイベント企画の実施者を探している際にはサポーターを紹介し、地域での活動の場を拡大した。



社協カフェでのイベントの様子

今後の方向性

地域福祉サポーターに参画いただく住民の方が増えているため、養成講座のプログラムに参画いただくなど、皆さんの声を積極的に事業運営に取り入れていれることで、活躍の場を創出し、具体的な活動につなげていく。

また、地域課題の解決に向け、サポーターの皆さんと共に、より効果的かつ具体的な仕組みづくりを目指していく。

コロナ禍に開始した 新たな見守りの取り組み

相談内容

- 相談者 町会長
- 相談内容 コロナ禍で停滞した町会の見守り活動を活性化したい
- 相談者の
思い サポート地域として登録して以来、コロナ前までは町会・老人クラブと協力をしながら活発に見守り活動を行ってきた。しかし、コロナ禍になり活動が停滞し十分な見守りが行えなくなってしまった。今後の取り組み方についてヒントを得たい。

開催までの流れ

□ 見守り活動を行う町会メンバーの思いをヒアリング

町会長の声をきっかけに町会を訪問。見守り活動を行ってきた町会のみなさんから、これまでの経緯や活動内容、そこで気づいたことや見守り活動に対する思いをヒアリング。コロナ禍のためサロンを休止し、手作りマスクや手紙の配布等を実施してきた。従来通りの活動は難しいものの、他にも何かみなさんの喜ぶことをして、笑顔が見たい、しかし何をしたらよいものか、と活動のヒントを求めている状況を確認する。

□ 先進的に見守り活動をしている住民の方と相談

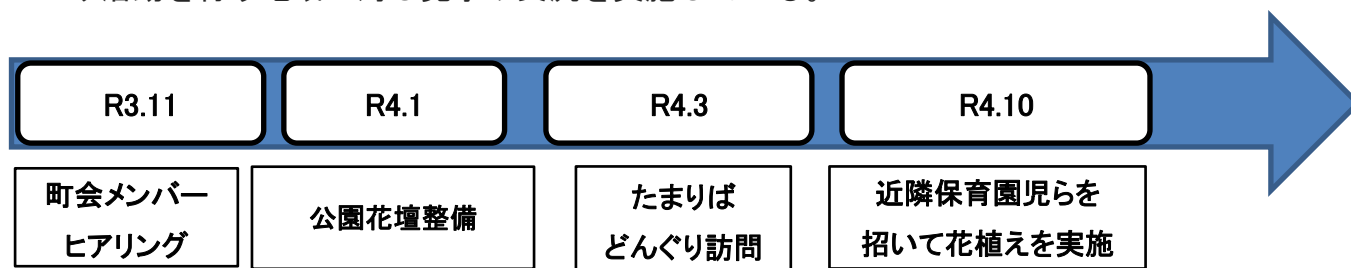
町会のみなさんからのヒアリングを受け、先進的に見守り活動をしている住民の方をアドバイザーとして紹介し、打ち合わせを実施。そこで共にこれまでの見守り活動を振り返り、町会の特色や強みについて確認。

アドバイザーから①近隣の公園をコミュニティーガーデンに登録し、屋外で人が集いやすい環境を作ろう、②対象を高齢の方に限定せず、多世代向けの活動に取り組んでみよう、との提案を受け、町会のみなさんも「まずはやってみよう」と賛同、取り組みを開始。

□ 公園の花壇活動スタート・『多機能型地域福祉活動拠点』との交流を実施

さっそく、近隣で人の集まる公園を江東区のコミュニティーガーデンとして登録。町会のみなさんおよび近隣から園芸に詳しい助っ人の方々に花壇のレイアウトを検討し、花苗等を準備、あっという間に公園の一角に花壇が完成する。

予想以上に近隣のみなさんに喜ばれ、水やり等に参加してくれる方も現れる。公園が高齢者に限らぬ屋外の集いの場として、より機能しはじめた。また、多世代向けの活動に取り組むための参考に、『多機能型地域福祉活動拠点』として活動をしている「たまりばどんどろ」を訪問。子ども向けの取り組み等にヒントを得て、意見交換を実施する。その後、近隣の中学校の花壇植え替え作業にお手伝い、近隣の保育園への呼びかけによる園児らの花壇の水やり活動等、「誰もが参加できる活動」に取り組みを拡充。他の見守り活動を行う地域に対し見学や交流を実施している。



成 果

★ コロナ禍の新たなつながりを醸成

町会のみなさん自らが屋外に新しい花壇をすることにより、世代を問わず近隣の方々が集まる新しい居場所ができ、花壇の世話を通じて新たなつながりができている。また、中学校、保育園などにも町会のみなさんが自ら積極的に働きかけを行い、新しいつながりを醸成している。さらに、近隣の町会・自治会の方々からの相談や見学に応じ、花壇活動を通じて地域をまたいだ交流づくりが広がっている。

今後の方向性

屋外で行う花壇活動で築いた地域との関係づくりを、他の地域がヒントとして応用できるよう情報提供し、町会等が地域を越えて横のつながりを築けるよう支援を行っていく。

語句解説

※1 長寿サポートセンター (P. 11)

介護保険法に基づく「地域包括支援センター」のこと。要支援認定を受けた高齢者に対する介護予防ケアプランの作成や、高齢者が住みなれた地域で暮らしていくための総合相談の受付等、専門職がチームで支援を行う。江東区内には 21 か所設置されている。

※2 社協カフェ「みんなの居場所」(P. 14)

地域と社協がつながる拠点として、区内を 4 地域に分け、地域福祉コーディネーターが同地域で 2 か月に 1 度開催している交流の場。区内のどの地域からでも、誰でも参加無料。楽しいイベントや茶話会で来場者同士自由に交流をしていただく中で、悩みごとや困りごと等生活課題をお持ちの方へは、各種相談機関を紹介したり、地域福祉コーディネーターが個別支援や地域支援につなげたりする場としての機能も果たしている。

※3 ふれあい・いきいきサロン (P. 15)

高齢者、障害者、子育て中の親子など、地域で孤立しがちな方を対象とした住民主体のサロン活動のうち、立ち上げや運営について社協が支援している活動のこと。

※4 地域ケア会議 (P. 15)

介護保険法第 115 条の 48 に規定されている会議体。地域内でサポートし合うことにより、高齢者が住み慣れた地域で、可能な限り長く尊厳ある生活をおくることができる「地域包括ケアシステム」の実現のため、多職種協働のネットワークを構築することを目的として、市町村や地域包括支援センターが開催する。江東区では、個別の高齢者の生活支援や、地域課題、高齢者向け施策の検討の場として、各長寿サポートセンターが主催している。

※5 ふれあいセンター (P. 16)

ふれあいセンター（老人福祉センター）は、地域の高齢者の方々が、明るく豊かな老後の生活を送れるように種々の事業を行っている施設。利用できる方は主に、区内在住で 60 歳以上の方および障害者の方、付き添いの方他。

※6 コミュニティガーデン (P. 27)

5 人以上のボランティア団体により、区施設（区立公園の緑地等）の花壇を利用して花やみどりを育て、地域の憩いや交流の場。

※7 多機能型地域福祉活動拠点 (P. 27)

江東区社会福祉協議会が「支え合いのまちづくり（地域福祉推進）」を進める互助活動に対して行う助成事業を受けている団体のうち、居場所事業（地域住民の日常的な居場所を提供する事業）、交流事業（地域住民の交流を目的とする事業）、社会参加事業（地域住民が主体となり参画する事業）、地域課題対応事業（地域の福祉の課題解決に取り組む事業）の全てを行い、多機能型地域福祉活動拠点と会長が認めた団体・活動のこと。令和4年5月現在、江東区内には「多世代交流の里 すなまちよっちゃん家」、「コミュニティサロン『カフェ06』」、「たまりば どんぐり」の3拠点がある。

社会福祉法人 江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課 地域支援係
江東区東陽 6-2-17 高齢者総合福祉センター2階
電話：03-3640-1200 ファックス：03-3699-6266
メール：suishin@koto-shakyo.or.jp
令和4年5月 発行